平成28年７月13日、旧大井小学校でNPO法人大井町づくり委員会の奥田吉信理事長と、一志学園高等学校の玉村典久校長をお迎えし、学校設立と受け入れる地域の皆さんとの交流について、前葉泰幸市長がお話を伺いました。

◇

市長　この旧大井小学校は明治41年の開校です。105年の長い歴史がありましたが、平成26年３月、その幕を降ろしました。卒業生は、5,048人いますが、奥田さんはその中の１人ということで、小学校ＯＢとして思い出などお話しいただけますか。

奥田　私が在学していたのは、昭和15年４月から昭和21年３月まで、ちょうど太平洋戦争が開戦してから終戦に至るまでを含んだ６年間でした。だから、在学中は戦争一色で過ごしたような気がします。

市長　疎開で通っていた同学年の友達もいたのではないですか。

奥田　入学当時は80人程度でしたが、20人ほどの疎開児童が来て、合わせて100人近い同級生がいました。私たちの学年が一番人数の変動の多い学年で、そんなに児童数が多い学年は他にありません。

大井小学校の閉校に寂しい思い 地域住民で活用方法を模索

市長　１学年で100人いたというとても大きな学校だった当時の大井小学校ですが、少子化の影響で子どもたちの数が少なくなってきました。波瀬小学校、高岡小学校とともに一志西小学校として平成26年にスタートすることになり、結果としてこの大井小学校は歴史を閉じたことになります。地域の方々は寂しい思いをされたと思いますが、当時のことを教えてください。

奥田　私たちも卒業生の一人、あるいは地域住民の一人として、本当に寂しい思いをしました。誰もが、閉校後の行く末をとても心配して、いろいろと提案はするのですが、決め手になるようなものはありませんでした。

市長　地元の皆さんには、いくつかアイデアがあったのですか。

奥田　住民の意見を聞くために、かなり詳しくアンケートを取りました。避難場所として活用してほしい、文化センターにする、生涯学習の場として活用するなど、最終的には６項目ほど案が出ました。

市長　地域の方の会議室として使うなどですね。

奥田　子育て支援施設や、手狭になった他地区の幼稚園をここに移転してはどうかという案、さらに学童保育として使ってはどうか、という意見もありました。

市長　いろいろな意見が検討されていましたが、実はそれとは別に、この中にないアイデアもひそかに検討されていました。ここで玉村校長に登場いただくわけですが、この小学校との出会いの前にまず、玉村先生がこれまでどのような取り組みをしてきたのか教えてください。

YOSHINOBU OKUDA

NPO法人
大井町づくり委員会理事長
奥田 吉信さん

昭和8年7月1日生まれ。昭和31年3月三重大学農学部卒業、平成6年3月三重県立伊勢高等学校長退職、平成6年4月梅村学園松阪大学事務局に勤務し平成11年3月同大学退職、平成27年10月20日に住民の交流拠点として、地域維持活性化を図ることを目的とする大井町づくり委員会設立。

NORIHISA TAMAMURA

学校法人玉村学園
一志学園高等学校校長
玉村 典久さん

昭和33年８月28日生まれ。昭和56年３月北海道大学経済学部経済学科卒業、昭和60年４月県立尾鷲高等学校教諭、平成17年４月任意団体チャレンジスクール三重代表、平成17年９月特定非営利活動法人チャレンジスクール三重理事長、平成28年４月学校法人玉村学園一志学園高等学校校長